

人々の生活とすまい



上の写真は1921年（大正10年）頃の現在の座光寺駅前付近の写真です。中央には「本棟造」と呼ばれる建物が見え、隣には長屋や大きな酒蔵があります。家の前は桑畑になっていて、養蚕を行っていたことが分かります。また道にそってお城のような石垣が続いています。左には共信社と呼ばれた製糸工場があり、さらにその奥には元善光寺（如来寺）があります。自動車はまだ走っておらず、右下に荷馬車が見えます。

現在の座光寺駅前とくらべると分かるように、この写真に写っている建物や石垣、道筋まで、ほとんど失われてなくなっています。正面に見える家の門と、元善光寺だけが今でも残っています。

時代が経つにつれ、古い建物はどんどん取り壊されていきますが、座光寺にはまだ元善光寺や麻績神社などのお寺や神社、それから江戸時代から明治時代に建てられた100年以上も前の古い民家がたくさん残っています。

身近にどんな建物が残っているのか、どんな特徴があるのか調べてみましょう。またそうした古い建物を通して、当時の生活を追ってみましょう。